

今週（3月21日から3月24日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、連休明けとなる21日が国債大量発行・償還・利払いに伴う大幅余剰日からのスタートとなり、日銀当座預金残高は330兆円台後半での推移となった。資金需給上は大幅な余剰となっていたものの、基準比率の見直しや貸出増加支援オペによってマクロ加算残高に余裕がある先も多く、無担保コールO/Nの出合いは前営業日対比で弱含む先もあれば、一方でレートを切り上げている先もあるなど、各金融機関マチマチであった。全体としてみれば、積み期間の序盤であることや、今月末が3日積みとなること等から、ビッドサイドが優勢な印象で、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.04%前後での推移となった。ターム物に関しては3月末を跨ぐ証券業態のロール案件及び期内にエンドを迎える地銀での出合いが中心となった。

固定金利方式の共通担保オペは23日に2W・8,000億円がオファーされた。3月末を越えるためか、3,900億円（期落ち額1,300億円）と期落ち額を上回る応札があった。

●レボ市場

今週のGC O/N物は▲0.075～▲0.025%程度の水準で推移した。21日のS/N（3/23-3/24）及び22日のS/N（3/24-3/27）は▲0.075～▲0.065%近辺の水準での出合い。23日のS/N（3/27-3/28）は短国3Mの発行要因から業者のファンディングニーズによるオファーが増加し、▲0.065～▲0.055%の出合い。24日のT/N（3/27-3/28）では前日の「3月末におけるレボ市場の国債需給タイト化への対応について」でアナウンスされた売現先オペの影響でビッドサイドの様子見姿勢が強く、▲0.04～▲0.025%と一段レートを切り上げての出合いとなった。S/N（3/28-3/29）は短国買入オペが見送られたこともあり、引き続き▲0.025%近辺と比較的甘い水準での出合いとなった。

SC個別銘柄では、5Y126～130、10Y336～346、30Y50～54、40Y9などにビッドの出入りが多く見られている。

●短国市場

今週の短国市場は、全体的に閑散ながらも、年度末超えの担保需要から概ね堅調に推移した。

23日には3M物の入札が実施された。年度内最後の入札という事もあり、平均落札利回▲0.3398%、按分落札利回▲0.3166%と、事前予想通りの順調な結果となり、セカンダリー市場でも▲0.35%と強めの出合が見られる堅調な展開となった。しかし、23日の17時に日本銀行のHP上で「3月末におけるレボ市場の国債需給タイト化への対応について」が発表され、3月中の短国買入オペが無いことが通知されると、1Y物で▲0.325～▲0.32%の出合いが見られていたものが▲0.29%での出合いが見られ、3M物は▲0.325%で出合うなど、一転して小甘い展開となった。24日の短国買入オペは見送られた。

3月中の短国買入オペの合計オファー額は1兆円となったことで、3月末の日銀の短国買入残高は32兆5,456億円となることが見込まれ、2月末に日本銀行が示した34～36兆円程度の残高見込みを下回った。

●CP市場

CP市場は、幅広い業態（鉄鋼・機械・電気機器・商社等）から大型の発行案件が見られたものの、期末決算の有利子負債削減に伴って一般事業法人の資金調達ニーズが弱まったこともあり、3月末超えの発行は限定的で、償還総額9,500億円程度に対し、発行総額は6,500億円程度にとどまった。3月末の償還物が30,000億円程度まで積み上がっていることもあり、3月末の発行残高が大幅に減少することが見込まれる。発行レートは、引き続き0%から浅いマイナス圏での取引が多く見られているが、一部期越え物では、強めの取引も散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
3/20（月）						
3/21（火）	19,455.88	0.060	112.70	△ 0.042	△ 0.071	3,378,000
3/22（水）	19,041.38	0.055	111.51	△ 0.039	△ 0.073	3,377,800
3/23（木）	19,085.31	0.050	111.48	△ 0.037	△ 0.073	3,394,000
3/24（金）	19,262.53	0.060	111.34	△ 0.039	△ 0.030	3,392,900

来週（3月27日から3月31日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/27 (月)	決定会における主な意見(3月15,16日分 8:50) 2月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)				
3/28 (火)		流動性供給 5,000億円 3/30発行			1月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 3月の米CB消費者信頼感指数
3/29 (水)	2月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)				
3/30 (木)		2Y 22,000億円 4/17発行			10-12月期の米GDP確報値
3/31 (金)	2月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 2月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 2月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 3月都区部・2月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 2月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 2月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				2月の米個人所得・消費支出 3月のシカゴPM景況感指数 10-12月期の英GDP確報値 3月のユーロ圏消費者物価指数速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/27 (月)	300	19,400	19,700	国債買入 国債売現先 全店共通 CP買入 国債補完		4,100 ▲ 10,000 3,900 ▲ 1,300 3,300	▲ 1,300	18,400	介護保険制度運営推進費の支払 TB3M発行▲44000償還42100
3/28 (火)	0	7,000	7,000				0	7,000	
3/29 (水)	0	▲ 5,000	▲ 5,000	社債買入		1,000	1,000	▲ 4,000	財政融資資金の回収
3/30 (木)	▲ 3,000	13,000	10,000				0	10,000	年度末諸払い 流動性供給▲5000
3/31 (金)	▲ 2,000	11,400	9,400	CP買入		6,000	6,000	15,400	年度末諸払い
週間合計	▲ 4,700	45,800	41,100	—	700	5,000	5,700	46,800	

3/27は日銀予想、3/28以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、介護保険制度運営推進日の支払や地方貸付、年度末の諸払いなどがあり、大幅な資金余剰が見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは、30日までは▲0.04%前後から▲0.03%台後半での推移が予想される。31日は、取引を控える先が複数居ることから、レートが低下する可能性も考えられる。

短国市場は、イベントが少なく、閑散なマーケットが予想される。31日の短国買入オペは見送られる見通し。

CP市場は月末発行にかかる週となり、発行案件の増加が見込まれる。28日にCP等買入オペが6,000億円オファーされる予定となっており、レートがどの程度まで低下するかが注目される。

主要なイベントとしては27日の金融政策決定会合の主な意見、30日の10-12月期の米GDP確報値、31日の2月の全国CPI、10-12月期の英GDP確報値、3月のユーロ圏CPI速報値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。